

リスク&ベネフィット コミュニケーション

「薬害肝炎事件の検証及び再発防止のための医薬品行政のあり方検討委員会」最終提言では、医薬品安全性のリスクコミュニケーションの課題が指摘された。また、医薬品リスク管理計画(RMP)では、通常のリスク最小化活動として「患者向医薬品ガイド」が位置づけられた。このガイドは、医療の「患者中心」、「患者参加」を重視する。「ベネフィット・リスクコミュニケーション」に加え、「shared decision making: 共有意思決定」、「ヘルスリテラシー」、「パートナーシップ」、「コンコーダンス」などもあわせて紹介する。

【演者】

大東文化大学大学院

スポーツ・健康科学研究科健康情報学領域予防医学 教授

杉森 裕樹 先生

日時：平成28年3月12日（土）15時30分～16時30分

場所：獨協医科大学医学部145番教室

参加費：無料

※どなたでも聴講できます（予約不要）

【演者プロフィール】

北海道大学医学部卒。オーストラリア・ニューカッスル大学臨床疫学課程修了。独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)専門委員。東海大学医学部客員教授等を兼任し臨床との接点を持ちながら、ヘルスコミュニケーションをテーマにした研究活動に従事する。厚生労働科学研究「患者及び医療関係者との医薬品等安全対策情報のリスクコミュニケーションに関する研究」班の研究代表者を務めた。その成果として昨年「FDA リスク&ベネフィット コミュニケーション: エビデンスに基づく健康・医療に関する指針」(丸善出版、2015)を出版した。

主催：獨協医科大学医学部公衆衛生学講座

【お問い合わせ】0282-87-2133（担当：西連地、今井）